



symbiosis らせんがつなぐインクルーシブな小学校

荒川 慎也 (あらかわ しんや)
東京電機大学 情報環境学部 情報環境学科



現在の小学校は、特別支援教育に基づき、障害児と健常児が別々の場で教育を受けている。よって障害児と健常児が居合わすという場が非日常的なものとなってしまっていると感じる。合理性を追求し障害があるという理由で学ぶ場を分けてしまうのは差別的ではないだろうか考える。そこでさまざまな児童が視線の交わり、導線の交わり、空間の曖昧さによってお互いを意識できるような、共生する小学校を提案する。

敷地は千葉ニュータウンの住宅街に位置し、街区公園と隣接した人の流れのある場所である。公園と学校を同化させ、公園内コミュニティが校内に広がり、児童と地域住人とのコミュニケーションの場となるように計画した。



講評

この小学校は近年主流となりつつあるオープンスクールですね。オープンスクールは子供たちの自主性の確立を目して計画された新しい教育形態ですが、教室移動が多いので健常者向きです。出展者は敢えて、この学校の中に障害者を取り込みました。障害者が社会から隔離されずに学ぶ場をどう建築にするかをまじめに検討している点に、出展者の障害者に対する温かい思いを感じます。

この建物はスロープが象徴的な小学校です。平面的なオープンスクールではなく、より多くの交わりの仕掛けとしてタテ方向のつながりに目を向けている点は良いと思いますが、シリンダーとスロープだけではタテの交わりは弱いのもう工夫欲しい所です。
(審査委員：林美栄子)